

JIS

滑り軸受ー巻きブシュ 第5部：外径の測定方法

JIS B 1584-5 : 2026

(JSME/JSA)

令和8年1月20日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	田 辺 新 一	早稲田大学
(委員)	安 部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	江 坂 行 弘	一般社団法人日本自動車工業会
	大 瀧 雅 寛	お茶の水女子大学
	奥 野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	片 山 英 樹	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	鐘 築 利 仁	一般財団法人日本規格協会
	鎌 田 敏 郎	大阪大学
	倉 片 憲 治	早稲田大学
	越 川 哲 哉	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	小 山 明 男	明治大学
	是 永 敦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	椎 名 武 夫	千葉大学
	寺 家 克 昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	高 津 章 子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	高 辻 利 之	一般社団法人日本計量機器工業連合会
	田 淵 一 浩	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	俵 木 登美子	一般社団法人くすりの適正使用協議会
	水 流 聡 子	東京大学
	廣 瀬 道 雄	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	星 川 安 之	公益財団法人共用品推進機構
	細 谷 恵	主婦連合会
	増 井 慶次郎	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	山 内 正 剛	国立大学法人信州大学

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 26.9.22 改正：令和 8.1.20

官 報 掲 載 日：令和 8.1.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本機械学会

(〒162-0814 東京都新宿区新小川町 4-1 KDX 飯田橋スクエア TEL 03-4335-7610)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 田辺 新一)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 記号及び単位	2
5 プシュ外径 D_0	2
6 測定の目的	3
7 測定方法	3
7.1 一般	3
7.2 外径の測定方法 A—プシュ外径 D_0 の測定	3
7.3 外径の測定方法 B—プシュ外径 D_0 のゲージ検査	3
7.4 外径の測定方法 D—プシュ外径 $D_0 > 120 \text{ mm}$ の測定	3
7.4A その他の測定方法	3
8 プシュ外径測定方法の選定	4
9 外径の測定方法 A	4
9.1 測定機器	4
9.2 測定ブロック及び基準プラグに対する必要条件	6
9.3 手順	9
9.4 補正量 C の算出	9
9.5 測定上の誤差	9
9.6 測定方法 A における因子の要約及びその他の測定方法	10
10 外径の測定方法 B	10
10.1 ゲージ	10
10.2 ゲージに対する規定	10
10.3 手順	11
10.4 測定上の誤差	11
11 外径の測定方法 D	11
11.1 ゲージ	11
11.2 測定機器	11
11.3 手順	12
11.4 測定上の誤差	12
12 図面表記	12
13 測定機器の管理	12
13.1 ゲージ	12
13.2 測定機器	13
附属書 JA (参考) 測定方法 A における因子の要約及びその他の測定方法	14

	ページ
参考文献	15
附属書 JB (参考) JIS と対応国際規格との対比表	16
解 説	18

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本機械学会（JSME）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS B 1584-5:2014** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS B 1584 規格群（滑り軸受－巻きブシュ）は、次に示す部で構成する。

- JIS B 1584-1** 第 1 部：寸法
- JIS B 1584-2** 第 2 部：外径・内径の算出に必要なデータ及び図示方法
- JIS B 1584-3** 第 3 部：油穴、油溝及び油だまり
- JIS B 1584-4** 第 4 部：材料
- JIS B 1584-5** 第 5 部：外径の測定方法
- JIS B 1584-6** 第 6 部：内径の測定方法
- JIS B 1584-7** 第 7 部：薄肉ブシュの肉厚の測定方法

白 紙

滑り軸受—巻きブシュー— 第 5 部：外径の測定方法

Plain bearings—Wrapped bushes—Part 5: Checking the outside diameter

序文

この規格は、2020 年に第 2 版として発行された ISO 3547-5 を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で、細分箇条番号の後に“A”から始まるラテン文字の大文字を付記した細分箇条及び附属書 JA は、対応国際規格にはない事項である。また、この規格で点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、附属書 JB に示す。

1 適用範囲

この規格は、巻きブシューの外径の測定方法（JIS B 1584-2 の測定方法 A、測定方法 B 及び測定方法 D）について規定する。

注記 1 巻きブシューの寸法は JIS B 1584-1、肉厚測定は JIS B 1584-7 に規定されている。

注記 2 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 3547-5:2020, Plain bearings—Wrapped bushes—Part 5: Checking the outside diameter (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1 に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格のうち、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 0162-1 滑り軸受—用語、定義及び分類—第 1 部：設計、軸受材料及びその特性

JIS B 0163-2 滑り軸受—記号—第 2 部：応用記号

JIS B 0401-2:2016 製品の幾何特性仕様（GPS）—長さに関わるサイズ公差の ISO コード方式—第 2 部：穴及び軸の許容差並びに基本サイズ公差クラスの表

注記 対応国際規格における引用規格：ISO 286-2:2010, Geometrical product specifications (GPS)—ISO code system for tolerances on linear sizes—Part 2: Tables of standard tolerance classes and limit deviations for holes and shafts 及び Technical Corrigendum 1:2013

JIS B 1584-2 滑り軸受—巻きブシュー—第 2 部：外径・内径の算出に必要なデータ及び図示方法